

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
教育原理	藤田 泉	単独	2単位	こども学科 2年次	前期	選択必修	必修	必修		CGI
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
教育の基本的概念を修得すると共に、教育の成立要因とそれらの相互関係、教育の歴史に関する基礎的知識、それと教育理念との関係や現代までの学校の変遷、教育思想及びその現実の教育・学校との関係を理解している。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	教育とは何かを学ぶ。	『教育原理』(以下『原理』) 2-5頁を読む。	教育とは何かを整理する。	9	近代社会の誕生とそこから生まれた近代教育思想について学ぶ。	『原理』第6講を読み、ワークシートに記入。	政治的主権者育成という思想の成立経緯を整理する。		
	2	他の動物とヒトとの違いから、人間の教育の特質を理解する。	『原理』5-7頁を読み、ワークシートに記入。	人間の発達の特質について整理する。	10	19世紀以降の国民国家成立と産業発展が社会に与えた影響と、そこから生まれた教育上の様々な課題について知る。	『原理』第7講を読み、ワークシートに記入。	教育の機会均等思想と社会的な再生産機能を整理する。		
	3	社会における教育の意味を学び、現代日本における学校教育(および集団保育)の社会的役割について理解する。	『原理』第2講を読み、ワークシートに記入。	現代日本における学校教育の社会役割を整理する。	11	20世紀末以降における、近代教育思想のとなえなおしと改革の思想について学ぶ。	『原理』第14講を読み、ワークシートに記入。	教育における対話、生活経験、身体知等重視を整理する。		
	4	教育実践を支える発達理論を学ぶ。	『原理』第3講を読みワークシートに記入。	現代の教育実践を支える発達理論について整理する。	12	現在の学校制度と教育行政の仕組みについて基本的知識を理解する。	『原理』114-132頁を読みワークシートに記入。	現在の学校制度と教育行政の仕組みを大まかに整理する。		
授業の概要										
教育学の諸概念、教育の本質及び目標、教育の成立要素と相互関係、家族と社会による教育の歴史、近代教育制度の成立と展開、現代社会の教育課題の歴史的理解、家庭や子どもや学校、学習に関わる教育思想、代表的な教育家の教育思想を学ぶ。事前学修を重視し適宜VTRを利用し小グループでの話し合いを通して考えを深める。	5	教育者の仕事、教育者に求められる資質、研修の必要と方法、教員養成制度の歴史の変遷を大まかに学ぶ。	『原理』2-3、124頁を読みワークシートに記入。	教員の仕事、資質、研修、養成制度の変遷を整理する。	13	特別支援教育の理念の基本を理解する。	前回配布された資料を読みワークシートに記入。	特別支援教育の基本的考え方を整理する。		
	6	日本の近・現代における公教育の歴史を大まかに理解する。	『原理』112-115頁を読みワークシートに記入。	日本の義務教育制度の歴史の変遷について整理する。	14	現代の教育課題について各自調べたことを発表し議論する。国際化、情報化、少子高齢化等がもたらす教育課題とそれへの対応につき考える。	前回提示された教育課題から一つを選んで調べた内容の復習をする。	授業時の議論をふまえて選んだ教育課題について整理する。		
	7	日本の近・現代における教育方法の歴史の変遷を大まかに学ぶ。	『原理』第8講を読み、ワークシートに記入。	明治以降の公教育での教育方法の変遷を整理する。	15	第14回までの学修内容について意見交換とまとめをし(30分)、学修内容の理解についての筆記試験を受ける(60分)。	第1~14回の学修内容の復習をする。	全回分の学びについて整理する。		
	8	近現代の子ども観の特質と歴史的变化を学ぶ。	『原理』第9講を読み、ワークシートに記入。	伝統的な子ども観が明治以降どう変わったかを整理する。						
教科書・テキスト等	平成29年告示 幼稚園教育要領、保所保育指新、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>(チャイルド本社)、新基本保育シリーズ② 教育原理(中央法規)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					筆記試験	70%	理解度※受験条件:5分の4以上出席			
					平常点	30%	事前事後学修、授業への積極的参加			
参考書・参考資料等	適宜配布資料を利用する。									

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
保育原理	藤田 泉	単独	2単位	こども学科 1年次	前期	選択	必修	必修		CGI
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたかを理解する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	この授業の学び方を学び、生涯にわたる教育の基礎段階としての幼児教育(以下、「保育」とは何かを理解する。	シラバスと教科書『保育原理』の序文と目次を読む。	授業の学び方を確認し、保育とは何かを整理する。	9	3歳以上児の保育について学ぶ。	教科書第9講を読み、ワークシートに記入する。	3歳以上児の保育について整理する。		
	2	保育の社会的役割と責任を学ぶ。	教科書第2講を読み、ワークシートに記入する。	保育の社会的役割と責任について整理する。	10	子ども理解に基づく保育の過程の理論を学ぶ。	教科書第10講を読み、ワークシートに記入する。	子ども理解に基づく保育の過程の理論を整理する。		
	3	保育の制度的位置づけを学ぶ。	教科書第3講を読み、ワークシートに記入する。	保育の制度的位置づけを整理する。	11	子ども理解に基づく保育の過程の計画の方法について学ぶ。	教科書第11講を読み、ワークシートに記入する。	子ども理解に基づく保育の過程の実践を整理する。		
	4	保育の実施体系について学ぶ。	教科書第4講を読み、ワークシートに記入する。	保育の実施体系を整理する。	12	西洋の保育の思想と歴史を大まかに理解する。	教科書第12講を読み、ワークシートに記入する。	西洋の保育の思想と歴史について整理する。		
授業の概要										
生涯にわたる教育の基礎段階である乳・幼児期の保育について理解する。1. 保育の意義及び目的を理解する。2. 保育に関する法令及び制度を理解する。3. 保育の基本を理解する。4. 保育の思想と歴史の変遷について理解する。5. 保育の現状と課題を理解する。	5	幼稚園教育要領、保育所保育指新、幼保連携型認定こども園教育・保育要領についてその内容を大まかに理解する。	教科書第5講を読み、ワークシートに記入する。	2017年改訂・改定要領・指針の内容を整理する。	13	日本の保育の思想と歴史を大まかに理解する。	教科書第13講を読み、ワークシートに記入する。	日本の保育の思想と歴史について整理する。		
	6	保育の目標と方法について学ぶ。	教科書第6講を読み、ワークシートに記入する。	保育の目標と方法について整理する。	14	日本の保育の現状と課題を大まかに理解する。	教科書第15講を読み、ワークシートに記入する。	日本の保育の現状と課題について整理する。		
	7	乳児の保育について学ぶ。	教科書第7講を読み、ワークシートに記入する。	乳児の保育について整理する。	15	これまでの学びについて意見交換とまとめをし(30分)第1回~14回の学修内容の理解についての筆記試験を受ける。	第1~14回の学修内容の復習をする。	全回分の学びについて整理する。		
	8	1歳以上3歳未満児の保育について学ぶ。	教科書第8講を読み、ワークシートに記入する。	1歳以上3歳未満児の保育について整理する。						
教科書・テキスト等	平成29年告示幼稚園教育要領、保育所保育指新、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>(チャイルド本社)、保育原理(新・基本保育シリーズ①)(中央法規)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					筆記試験	70%	理解度※受験条件:5分の4以上出席			
					平常点	30%	事前事後学修、授業への積極的参加			
参考書・参考資料等	適宜配布資料を利用する。									

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
発達心理学	竹下 健太	単独	2単位	こども学科 2年次	後期	選択必修	選択必修		選択必修	CGI
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
子ども達の心と体の成長や学びに影響する遺伝と環境の関わり合いや発達段階に合わせた各領域の支援ができるようになる。さまざまな学びに関する理論をもとに子ども達を理解し、子ども達自らやる気をだしたり、仲間を作ったりするサポートができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	人が一生発達し続ける様子を概観し発達心理学の必要性を学修	教科書を読んで疑問点をまとめておく	一生涯発達し続ける存在として自分の人生を考察	9	外界を適応的に捉えるために必要な遺伝と環境の相互作用について学修	主観と客観がずれた知覚体験を思い出す	ヒトの知覚系の可塑性と臨界期について考察		
	2	遺伝と環境がお互いに影響を与え合うことについて学修	自分の個性がどのように作られたか教科書を基に考える	遺伝と環境に主体的に関わり自己を形成する方法を考察	10	ことばの発達を中心に様々な発達領域の関連を学修	これまでの内容を一通り復習しておく	各発達領域の関連を自分なりにまとめて考察		
	3	乳幼児期の愛着形成の理論とその意義について学修	自分の愛着の型を教科書を読んで予想しておく	自分の愛着をより安定したものにする方法を考察	11	知的能力における多様な個性とその発達を学修し、幼児、児童の個性に合わせた学習支援及び評価について学修	自分の情報処理の特性についてまとめておく	知能の多様性を理解し特性の価値を認める		
	4	乳幼児期から児童期にかけての遊びの発達とその発達に於ける意義(運動、言語、認知、社会性等)を学修	自分が子どものころにした遊びについてまとめておく	発達の意義から自分と他の学生の遊びを考察	12	個人的発達を基に、どのように社会性に発達するか学修し、幼児、児童の集団づくりの支援ができるようになる。	自分の対人関係の悩みについてまとめておく	自分の悩みを自分なりに答えを出す		
授業の概要	5	自我同一性形成の理論と自己概念の発達について学修	自分のアイデンティティの達成度を予想しておく	自分の自己概念の発達を振り返り理解を深める	13	道徳がいかに学ばれるかについて様々な学習理論を学修	自分の道徳心があるような起源をもつか考察	道徳の発達について言語づいて考察		
命の始まりから終わりまで、さまざまな面から学修。それによって人は、死ぬまで成長し続けることができること、自分で自分を変えることができること、他人を変えることはできないが、変わらうとしている人のお手伝いができることを学ぶ。	6	外発的動機と内発的動機の関係について学修し、幼児、児童の主体的学習を支えるような働きかけを学修	自分がやる気が出るのはどんなときかまとめておく	自分がやる気が出るのはどんなときかまとめておく	14	感情の生物学的基盤と社会的に構成された要素について学修	自分がどんな時どんな感情となるか自己観察	自己の感情制御の方法を考察		
	7	自己主張と自己抑制の発達が社会性の発達に与える影響について学修	自分の自己主張と自己抑制の事例をまとめておく	自己主張と自己抑制がバランスをとる方法を考察	15	発達における諸問題とその基本的対処方法を学修	これまでの内容を総復習しておく	発達の問題における様々な領域の関わりを考察		
	8	人格形成における遺伝と環境の相互作用について学修	自分の性格で変えたいところをまとめておく	自分の性格を変える方法について考察						
教科書・テキスト等	図で分かる発達心理学(福村出版)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					小レポート・発言	80%	意見の深まり・積極的な参加・理解			
					期末レポート	20%	課題についての調査、論旨一貫性、自分の考え			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
教育心理学	竹下 健太	単独	2単位	こども学科 4年次	前期	選択必修	選択必修		選択必修	CGI
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
子どもの学びと成長に影響を与える子どもの心と体、家庭や園とそれらの関わり合いを理解する。さらに学習に関する有名な複数の理論を基に子どもを評価し、それぞれに合わせた指導ができるようになる。またその指導により子どもをやる気にさせ勉強面だけでなく運動面や人間関係面において児童自ら向上させようとするような教師を目指す	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	教育心理学の歴史を概観しこれから学ぶ知識を整理するための枠組みを作る	自分の過去を振り返り教育における疑問点などをまとめる	幼児教育の現場における教育心理学の必要性を考察	9	児童期から青年期の心身の発達を包括的に概観し教育が発達に与える影響の大きさを理解する	発達の可塑性に影響を与える要因について事前学修	自分に影響を与えた出来事について考察		
	2	行動主義の実験が教育現場でどのように応用されているか学修	発達心理学における行動主義について復習しておく	行動主義的の手法で自分の問題行動を変えてみる	10	ヒトの乳幼児期における特殊性とそれを考慮した関わりについて学修	発達心理学における愛着理論について復習	自分の愛着スタイルを安定させる方法を考える		
	3	認知論的研究が、教育現場でどのように用いられているか学修	発達心理学における認知主義について復習しておく	認知論の観点から自分の学修方法を見直す	11	ヒトの児童期における概念操作の発達段階について学修(ピアジェの認知発達論)	小学校での学びと中学校での学びの違いをまとめる	異なる発達段階の生徒にどのように教えるか考察		
	4	コンピュータの情報処理をモデルとした人間の情報処理の理解について学修	発達心理学における記憶の実験について復習	コンピュータの情報処理と人間の情報処理について考	12	青年期を中心として様々な時期の発達課題の関わりを学修	自分の青年期の悩みについてまとめておく	生徒の発達課題の達成を支援する方法を考察		
授業の概要	5	心理学において個人差(性格)がどのように研究されてきたか学修	自分を観察し個人内差と個人間差についてまとめる	自分の個性が教師として生徒評価にどう影響するか考察	13	教師の個性と児童の個性の相互作用について学修し、それが、どのように学習評価に影響を与えるか学修	心理テスト等で自己理解を深めておく	自分の教え方や評価の癖とその影響を考察		
発達心理学をベースに、より応用的実践的な学びや発達支援、そして子ども達自ら頑張ろうという気持ちにさせる方法を学修	6	心理学において個人差(知能・学力)がどのように研究されてきたか学修	知能とは何を計るものか自分なりにまとめておく	知能の多様性とそれに関わった関わりについて考察	14	不登校やいじめ、非行などの不適応について学修し、幼児、児童のより良い集団づくりの支援の方法を学ぶ	学校不適応に関するニュースをチェックする	学校不適応の生徒にどのように対応するか考察		
	7	外発的動機と内発的動機の理論を教育現場でどう活用し、学生の主体的学びにつなげるかを学修	発達心理学における動機の実験を復習しておく	教師として生徒の内発的動機を高める関わりを考察	15	様々な発達障害とその対応について学修	発達障害に関する本を一冊以上読んでおく	発達障害の生徒にどのように対応するか考察		
	8	様々な教授法と学習法を生徒の個性に合わせて選択する方法を学修	自分がどんな教授法をされると解りやすいかまとめる	自分と違う個性の生徒に教育する際の教授法を練習						
教科書・テキスト等	教育心理学エッセンシャルズ(ナカニシヤ出版)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					小レポート・態度発言	80%	意見の深まり・積極的な参加			
					期末レポート	20%	課題についての調査、自分の考え			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
保育内容総論	亀井 裕子	単独	2単位	こども学科 1年次	後期	#REF!	選択必修	必修	#REF!	G I
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
保育とは何かについて概要を学ぶとともに、幼稚園教育要領に基づいた保育内容の捉え方を理解する。 遊びや生活を通して学ぶということを事例から考えることができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	保育とは何かについて考える	シラバスを読む	保育について学んだことをまとめる	9	家庭・学校・地域との連携を踏まえた保育について調べる	連携事例を調べる	連携で大切なことをまとめる		
	2	保育の始まり、幼児教育の歴史について調べる	保育歴について知る	学びをまとめる	10	子育て支援と保育内容について学ぶ	子育て支援について調べる	学びのまとめをする		
	3	幼稚園教育要領を踏まえ、幼稚園の一日を知る	幼稚園の一日を調べる	幼稚園の一日をまとめる	11	保育指導案を立案する 模擬保育をする	保育指導案について調べる	計画を仕上げる		
	4	幼稚園教育の基本及び全体構造を知る	幼児教育の基本について調べる	幼稚園教育の基本をまとめる	12	保育実践を学ぶ 保育の振り返りを通して保育の改善を知る 絵本の読み聞かせ・機器の有効活用を考	幼稚園の計画を調べる	事例から分かったことをまとめる		
授業の概要	5	遊びや生活を通して学ぶことを考える	遊びとは何かについて調べる	遊びや生活についてまとめる	13	保育の実践事例から学ぶ	幼児教育におけるエピソードを調べる	事例から分かったことをまとめる		
「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」を核として乳幼児期の発達特性や幼児理解を踏まえた保育の展開、育児支援の方法など、保育内容について総合的に学ぶ。	6	領域「健康」「人間関係」に関する事例から学ぶ	5領域について調べる	事例からの学びをまとめる	14	幼稚園教育の評価のあり方についてまとめる	評価について調べる	事例から分かったことをまとめる		
	7	領域「環境」「言葉」「表現」に関する事例から学ぶ	5領域について調べる	事例からの学びをまとめる	15	幼児教育のあるべき姿についてまとめる	これまでの資料をまとめておく	学びのまとめをする		
	8	子どもの安全及び健康支援について学ぶ	子どもの安全の課題を調べる	事例からの学びをまとめる						
教科書・テキスト等	幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本> (最新版) (チャイルド社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 課題(レポート) 試験	30% 10% 60%	意欲 態度 テーマの理解 理解度	自分の考え 丁寧さ まとめ方 自分の考え		

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
社会的養護論	池上 和行	単独	2単位	こども学科 3年次	前期	選択		必修		G I
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
児童福祉の基本原則、権利擁護、課題等に対応した保育実践のあり方を理解する。現代における家庭的養護の推進と養育の小規模化という課題について認識を深める。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	大学での学びとは。今日の児童の養護と社会的養護	シラバスを熟読する	授業のポイントをもとめて記録する	9	児童福祉施設における生活支援の基本原則を理解する	該当する教科書の項目に目を通しておく	授業のポイントをもとめて記録する		
	2	児童家庭福祉と社会的養護の関係を理解する	社会的養護の理念と概念の項に目を通す	授業のポイントをもとめて記録する	10	児童福祉施設にお各職種の役割・機能を理解する	該当する教科書の項目に目を通しておく	授業のポイントをもとめて記録する		
	3	日本における社会的養護の歴史を理解する(1)	該当する教科書の項目に目を通して調べる	授業のポイントをもとめて記録する	11	虐待待児の事例について考える	該当する教科書の項目に目を通して調べる	授業のポイントをもとめて記録する		
	4	日本における社会的養護の歴史を理解する(2)	該当する教科書の項目に目を通して調べる	授業のポイントをもとめて記録する	12	6つの運営方針について理解する	該当する教科書の項目に目を通して調べる	授業のポイントをもとめて記録する		
授業の概要	5	欧米の社会的養護の歴史を理解する	該当する教科書の項目に目を通して調べる	授業のポイントをもとめて記録する	13	施設養護とソーシャルワークについて理解する	該当する教科書の項目に目を通して調べる	授業のポイントをもとめて記録する		
児童福祉の歴史や制度などを学び、児童の権利という観点に立ち脚した現代における社会的養護のあり方を考える。	6	社会的養護における子どもの権利のとらえ方を理解する	該当する教科書の項目に目を通して調べる	授業のポイントをもとめて記録する	14	施設養護とケアワークについて理解する	該当する教科書の項目に目を通して調べる	授業のポイントをもとめて記録する		
	7	社会的養護の体系を把握し、理解する	該当する教科書の項目に目を通して調べる	授業のポイントをもとめて記録する	15	社会的養護の課題と展望	試験対策	自己採点		
	8	社会的養護の根拠法と運営に関しての基準等を理解する	該当する教科書の項目に目を通して調べる	授業のポイントをもとめて記録する						
教科書・テキスト等	『社会的養護と障害児保育』保育士養成講座編集委員会(全国社会福祉協議会)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					受講態度・発表 筆記試験	50% 50%	受講態度と思考する力を身につけ発表できる 理解した事をまとめて文章化する事ができる			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
保育者論	亀井 裕子	単独	2単位	こども学科 1年次	前期			必修		G I
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
専門職としての保育者のあり方について学ぶ。 ・保育の現状と保育者の役割について知る。 ・保育者の専門性とは何かについて理解する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	意義・目的 保育の意義や目的について知る	シラバスを読む	意義や目的についてまとめる	9	保育者の協働② 事例研究をする	保育者間の協働について事例を 探す	事例から学んだことをまとめる		
	2	使命と公共性 保育職の使命と公共性について学ぶ	保育者の使命について調べる	学びをまとめる	10	子育て支援と保育者の役割① 子育て支援活動の種類について学ぶ	子育て支援について調べる	学びのまとめをする		
	3	専門性 保育者の専門性について学ぶ	保育者の専門性とは何かを調べる	専門性についてまとめる	11	子育て支援と保育者の役割② 子育て相談への対応	幼稚園教育要領を読む	相談のあり方についてまとめる		
	4	子どもと保育者 保育における課題と保育者のあり方について	保育の課題を調べる	保育の課題をまとめる	12	権利と支援 子どもや保育者を守る権利と支援について学ぶ	子どもの権利を調べる	分かったことをまとめる		
授業の概要										
社会情勢の変化や法改正に伴い、保育と幼児教育の公共的使命が明確になってきている。多様なニーズに対応し、専門性や役割、倫理観など専門職としての保育のあり方について学ぶ。	5	保育士の仕事と役割 児童福祉施設の役割と保育士の仕事について知る	児童福祉施設について調べる	保育士の役割をまとめる	13	保育者の身分 保育者の身分や職務、保育倫理について考える	保育倫理について調べる	分かったことをまとめる		
	6	資質能力① 幼児理解と援助について学ぶ	幼児理解について調べる	幼児理解についてまとめる	14	課題 現代社会の変化と保育者の課題について考える	保育の課題を調べる	学びのまとめをする		
	7	資質能力② 環境構成とかわり	環境構成の課題について調べる	幼児理解についてまとめる	15	まとめ 保育者の役割を中心にまとめる	これまでの資料に目を通す	学びのまとめをする		
	8	保育者の協働① 職場の環境づくりについて考える	幼稚園教育要領を読む	環境構成についてまとめる						
教科書・テキスト等	幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本> (最新版) (チャイルド社)			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点 課題(レポート) 試験	20% 20% 60%	意欲 態度 テーマの理解 自分の考え 丁寧さ まとめ方 理解度 自分の考え			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
こどもの保健	末武 けい子	単独	2単位	こども学科 1年次	後期	選択		必修		C G I
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
乳幼児期の心身の発育・発達の特徴や健康状態とその把握の方法について理解する。また、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応を理解する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション (保育における子どもの保健) ・こどもの保健の学修内容について	シラバスを熟読する	自分の長所を確認し、学修のまとめをする	9	3、子どもの心身の健康状態とその把握 (1)健康状態の観察 レポート連絡	テキストを熟読する	学修のまとめをする		
	2	1、子どもの心身の健康と保健の意義 (1)生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的	テキストを熟読する	健康な子どもを考え、学修のまとめをする	10	(2)心身の不調等の早期発見	テキストを熟読する	学修のまとめをする		
	3	(2)健康の概念と健康指標	子どもの健康について考える	学修のまとめをする	11	(3)発育・発達の把握と健康診断	テキストを熟読する	学修のまとめをする		
	4	(3)現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 DVD(0歳児)視聴	ICTの問題を考える	学修 (ICTのルール)のまとめをする	12	(4)保護者との情報共有 レポート提出締め切り	テキストを熟読する	学修 (保護者との情報共有)のまとめをする		
授業の概要										
子どもの心身の健康増進を図ることを目的とする。特に発育発達の目覚ましい乳幼児期の健康状態を学ぶ。また、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について学ぶ。	5	(4)地域における保健活動と子ども虐待防止	虐待について考える	児童虐待についてまとめる	13	4、子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1)主な疾病の特徴	テキストを熟読する	学修のまとめをする		
	6	2、子どもの身体的発育・発達と保健 (1)身体発育と保健 DVD (1～2歳児) 視聴	テキストを熟読する	学修 (身体発育)のまとめをする	14	(2)子どもの疾病の予防と適切な対応	テキストを熟読する	学修 (疾病の対応)のまとめをする		
	7	運動機能の発達と保健 DVD (3～5歳児) 視聴	テキストを熟読する	学修 (運動機能)のまとめをする	15	まとめ ・これまでの講義の内容を総括する	これまでの学修内容を振り返る	これまでの学修内容の要点をまとめる		
	8	(2)生理機能	テキストを熟読する	学修 (生理機能)のまとめをする						
教科書・テキスト等	第7巻 こどもの健康と安全(全国社会福祉協議会)、適宜プリント配布			成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
参考書・参考資料等					平常点(態度・行動観察) 課題 / レポート 期末テスト 毎時間の振り返り	10% 10% 70% 10%	受講態度、課題へのとりくみ 内容の深さと自分の考え 筆記試験 毎時間の振り返り表の提出状況、内容の充実			

科目名	担当者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
国語表現法	植山範夫	単独	2単位	こども学科 1年次	後期	選択	選択必修	選択必修		A C H
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
保育者に求められる書く力	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
保育者として、あるいは社会人として、たくさんの書く機会がある。自分の伝えたいことが正しく伝わり、伝える相手との信頼関係を築くことにつながるように、よりよい文章を書くための基礎的な力を身につける。	1	低学年国語に学ぶ① ・ 説明文を読む ・ 文章構造を捉える	小学校の説明文の授業で学んだことを想起する。	文章の書き方で参考になったことを整理する。	9	手紙を書く① ・ 手紙の基本形式 ・ 挨拶状	自分の手紙に関する経験について想起する。	基本形式を踏まえ、課題に即した挨拶状を書く。		
	2	低学年国語に学ぶ② ・ 物語文を読む ・ 叙述をもとに想像する	小学校の物語文の授業で学んだことを想起する。	文章の書き方で参考になったことを整理する。	10	手紙を書く② ・ 依頼状 ・ お礼状	いろいろな形式の手紙の書き方について調べる。	課題に即した依頼状・お礼状を書く。		
	3	漢字を正しく書く① ・ 字形と字体 漢字の成り立ち ・ 凸凹の筆順 筆順の原則	これまでに漢字について学んだことを想起する。	学修を踏まえ、漢字に関する基本的知識を整理する。	11	お便りを書く① ・ 目的意識 相手意識 ・ 適切な内容の選択	学校でもらった学級通信等の経験を想起する。	課題に即してお便りに書く材料を集める。		
	4	漢字を正しく書く② ・ 変換ミス 同音異義 同訓異字 ・ 送り仮名 熟語	漢字の読み書きで間違いやすいことについて想起する。	学修を踏まえ、漢字に関する基本的知識を整理する。	12	お便りを書く② ・ 易しい言葉 ・ 紙面構成の工夫	効果的な紙面構成の工夫について調べる。	学修を踏まえ、課題に即したお便りを書く。		
授業の概要										
文章を書く上で、よくある間違い誤解を招く表現について、日本語の特質を踏まえて、その要因を考える。意見文と物語文の実作を通して、文章表現の基本を学ぶ。さらに、社会で、保育の現場で書くことになるであろう文章を書く。これらの学修を通して、実践的な書く力を身につけていくことを目指す。	5	意見を書く① ・ 意見文の基本構成 ・ 事実 意見 論理	新聞の投書や社説を読み、自分なりの感想を持つ。	意見文で書くことを考え、書く材料を集める。	13	連絡帳を書く① ・ 伝えることと伝わることの距離 ・ 言葉が生む誤解	メール・LINEの言葉での誤解について想起する。	言葉による誤解が生まれる要因について整理する。		
	6	意見を書く② ・ 記述 推敲 ・ 感想交流	書きたい内容を明確に持ち、記述できる準備をする。	新聞の投書や社説の意見・表現に関心を持って読む。	14	連絡帳を書く② ・ 考えや想いを伝える言葉 ・ 信頼関係を築く言葉	学修を踏まえ、課題に即した連絡帳の文面を考える。	これまでの学修内容を振り返り、知識を整理する。		
	7	物語を書く① ・ 物語文の基本構成 ・ 主題 人物 状況 事件	絵本や童話を読み、自分なりの感想を持つ。	物語文で書くことを考え、書く材料を集める。	15	伝わる国語表現法 ・ 感想を話す ・ 感想を書く	これまでの学修内容を想起し、感想の整理をする。	いろいろな国語表現に関する文献を読む。		
	8	物語を書く② ・ 記述 推敲 ・ 感想交流	書きたい内容を明確に持ち、記述できる準備をする。	絵本や童話の主題・表現に関心を持って読む。						
教科書・テキスト等	学修内容に応じて、資料を配付する。		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント				
参考書・参考資料等	適宜、資料を配付する。			期末試験・レポート	50%	理解の確かさ・認識の深さ・独自の考え				
				課題への取組	30%	事前準備・意見発表・事後整理の状況				
				平常点	20%	意見交流への前向きな参加態度				